

成人看護技術論

必修

開講年次：3年次前期

科目区分：講義

単位：1単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：成人期において発症しやすい疾患に対する基本的な看護技術を理解する。また健康障害を有して検査や治療が行われる対象への効果的な援助技術について、看護過程を展開しながら理解を深め、主体的に実践し習得する。

■**到達目標**：①成人期の対象者とその家族の特徴を理解し、対象に合わせた援助方法を説明できる。
②健康障害を有する対象者の看護過程を展開し、必要な看護計画を立案できる。
③立案した看護を効果的に提供するための基本的な看護技術が実施できる。
④グループ内で積極的に意見交換を行い演習へ主体的に参加できる。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎貝谷 敏子・小田 和美・川村 三希子・神島 滋子・菅原 美樹・藤井 瑞恵・工藤 京子・小坂 美智代・柏倉 大作

■**授業計画・内容**：

- 第1回 講義：周手術期患者の看護技術①：術前
- 第2回 講義：周手術期患者の看護技術②：術中・術直後
- 第3回 演習：周手術期患者の看護技術①：術前
- 第4回 演習：周手術期患者の看護技術②：術直後
- 第5回 講義：周手術期患者の看護技術③：術後～退院へ向けてのケア
- 第6回 講義：慢性疾患患者のセルフマネジメントをうながす看護技術
- 第7回 演習：周手術期患者の看護技術③：術後～退院へ向けてのケア
- 第8回 演習：慢性疾患患者のセルフマネジメントをうながす看護技術
- 第9回 講義：身体侵襲を伴う検査を受ける患者に必要な看護技術
- 第10回 講義：消化機能障害患者の症状改善に必要な看護技術
- 第11回 演習：身体侵襲を伴う検査を受ける患者に必要な看護技術
- 第12回 演習：消化機能障害患者の症状改善に必要な看護技術
- 第13回 講義：呼吸・循環機能障害患者の症状改善に必要な看護技術
- 第14回 演習：呼吸・循環機能障害患者の症状改善に必要な看護技術
- 第15回 まとめ

■**教科書**：野崎真奈美・林直子・佐藤まゆみ他編：成人看護学 成人看護技術（南江堂）

■**参考文献**：雄西智恵美・秋本典子：成人看護学 周手術期看護論（Nouvelle Hirokawa）
中村恵子監修：救急ケアNursing Selection®（学研）
畑尾正彦・森美智子監修：ナースのためのチューブ管理マニュアル（学研）
村上美好監修：写真でわかる臨床看護技術（インターメディカ）

■**成績評価基準と方法**：筆記試験（50%）・技術試験（30%）演習レポート評価（20%）

なお、出席時間が授業時間の2/3に満たない場合、成績評価の対象とはしない。

評価方法	到達目標				評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③	到達目標④		
筆記試験	◎	○	○		各授業の理解度	50
技術試験	◎	○	◎		看護技術の到達度	30
演習レポート評価	◎	◎	◎	◎	課題達成度	20
出席					2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：成人看護学概論、成人看護援助論、症状マネジメント論、疾病治療学A・B・C、治療病態学概論、臨床栄養学、在宅看護技術論

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：この科目では、的確な判断能力と問題解決能力に基づく看護技術が求められます。特に、引き続いて履修する「成人看護学臨床実習Ⅱ」では大変重要となります。
講義日の終了時に、次回の演習のための事例と事前学習課題レポートを提示します。演習では事前学習課題レポートに基づいて実技を展開するので、事前学習は必須です。積極的な受講を期待しています。